



人間開発報告書 2010: 国家の真の豊かさ—人間開発への道筋

基本メッセージ

- 「人々はまさに国家の宝である」—1990年の人間開発報告書 (HDR) 創刊号の冒頭に記された言葉です。2010年版HDRは人間開発の基本概念を、「人々が長寿で、健康で、創造的な人生を送る自由」、「意義ある目標を追求する自由」、そして、「すべての人類の共有財産である地球上で、平等かつ持続可能な開発を進めるプロセスに積極的に関わる自由」を拡大することであると再定義しました。人々は個人としても集団としても、人間開発の受益者であると同時に推進役でもあります。人間開発は基本原則を尊重する一方で、議論や話し合いを重視し、本質的に柔軟なものです。人間開発は開かれた、強固でかつ本質的に柔軟な概念で、新世紀のためのパラダイムを提供し得るものです。
- 世界の大半の人はここ数十年で大きく前進—先進国と途上国の計 135 カ国で行った体系的分析の結果、1970年から2010年にかけて目覚ましい進捗が見られました。平均余命は59歳から70歳に伸び、初等教育の就学率は55%から70%に上がり、1人当たりの所得は倍増して1万ドル以上となりました。さらに多くの最貧国も大きく前進しています。ただし、135カ国のうち3カ国だけ例外があります。コンゴ民主共和国、ザンビア、ジンバブエの3カ国は、1970年に比べて、HDIの値が悪化しました。
- 人間開発の見方(レンズ)は、経済成長だけでは分からない重要な洞察を可能に—本報告書で提示する新しいデータと分析結果によって、1990年の人間開発報告書で提示した2つの中心的な主張、すなわち人間開発と経済発展が別個のものであることと、たとえ経済が急速に発展していなくても技術の進歩や社会構造の変化で人間開発を大きく前進させることが可能ということを再確認しました。
- 「HDI最大改善国」(40年間でHDIの値が最も改善した国々)は、長足の進展が可能であることを立証—1970年以降HDIが大幅に改善した上位10カ国は、「奇跡の経済成長」を遂げたとして知られる中国、インドネシア、韓国などに加え、ネパールやチュニジアなど所得以外の人間開発の要素が目覚ましく改善した国も含まれています。中国を除くすべての国々では、HDI値が伸びた主な理由は所得ではなく、健康と教育状況の進歩でした。経済指標では開発の成功例として扱われること

のあまりないエチオピア(進歩の速度は世界 11 位)、ボツワナ(14 位)、カンボジア(15 位)、ベナン(18 位)なども上位に入っています。

- **人間開発の格差は縮まる一方、所得格差は是正されていない**—保健と教育の分野での先進国と途上国間の溝は顕著に縮まってきています。しかし、所得分布の上位には同じ少数の国々が名を連ね続け、貧しかった国が高所得国のグループに加わったケースはほんの一握りしかありません。
- **世界は人間開発で大きく前進したが、この数十年の変化がすべて好ましいものとは言えず、状況は実に多様である**—世界全体では人間開発が前進する一方で、保健分野で大きく後退した国や、数十年間の進歩がわずか数年でかき消されてしまった国もあります。また近年のグローバルな金融危機によって、多くの人が影響を受け、特に仕事を失った人は厳しい状況に置かれています。
- **人間開発の内容は教育、健康、所得にとどまらず、またすべての良いことをもたらすとは限らない**—HDI の値は高くても、非民主的で、不平等で、持続不可能な国はありうる一方で、HDI の値が低くても、民主的で、平等で、比較的持続可能性な国もあります。
- **政治的自由の拡大している**—過去にはないほど多くの人が、指導者を自ら選び、指導者に説明責任を求めることが可能になりました。定期的な選挙が行われる国の割合は、1970 年には世界の 3 分の 1 に満たない状況でしたが、現在ではほとんどの国で実施されており、地域の民主化は進んでいます。依然として課題はあるものの、以前は社会の片隅に押しやられていた女性や貧困層、先住民、難民、性的マイノリティなどの人々の声が政治に届きやすくなりました。
- **数値評価できる領域を拡大していくための取り組み**—人々の生活に関わるさまざまな側面を数値評価することは、人間開発のアプローチの一貫した命題です。2010 年版の報告書では、以下の 3 つの新しい実験的な指標を取り入れました。
- **不平等調整済み人間開発指数 (Inequality-adjusted Human Development Index: IHDI)**は、139 カ国を対象に、健康、教育、所得の各分野における不平等の度合いを考慮した上で、人間開発の達成度の平均を数値化した指標である(注: 不平等が大きいくほど、HDI は下落する)。人間開発指数が下方に修正されるなか、その下落幅がもっとも小さい国はチェコ共和国(下落率:6%)、下落幅が最大となった国はモザンビーク(同:45%)だった。またHDIの低い国々では、より不平等が大きくなる傾向がみられた。
- **ジェンダー不平等指数 (Gender Inequality Index: GII)**は、137 カ国を対象に、人間開発上で女性に不利に働く労働市場、保健、エンパワーメントの 3 つの側面で男女差格を測ります。ジェンダーの不平等が原因の人間開発の値の下落幅は、最も小さいオランダで 17%、最大のイエメンで 85%であった。

- **多次元貧困指数 (Multidimensional Poverty Index: MPI)**は、健康、教育、生活水準の面における貧困の度合いと頻度を明らかにするものです。MPIで見ると、104カ国の途上国で暮らす人の3分の1にあたる約17.5億人が多次元貧困状態にあることが分かりました。この人数は、同じ国々において1日1.25ドル未満で暮らしていると推計される14.4億人を上回っており、所得が向上している国でも、貧困がまん延していることを示しています。
- こうした指標を単一的あるいは複合的に用いることで、人間開発で成果をあげて、その度合いが高い国々にも残っている大きな課題に、新たな光を投げることができます。
- **開発論は一様の政策的処方箋を求めすぎている**—本報告書では、これまでに蓄積された経験と証拠から、特定の政策的処方箋ではなく、当該国やコミュニティの独自性にこそ着目すべきであることを示しています。不平等や貧困と対峙する重要性などの基本原則に基づいて、それぞれの事情に合わせた政策や開発戦略を作るべきです。こうした基本原則を具体的な政策の形に変える上で、文脈を注意深く読むことが極めて重要です。単に他国の組織や政策的解決法を持ち込もうとする試みは、これまでしばしば失敗してきました。
- **莫大な資金や資源がなくても、前進は可能である**—一人々の生活を改善することは、多くの国々で既に利用可能な方法だけでも実現できます。地球規模の知見と技術発展で、比較的貧しい国々であっても、画期的な進歩ができるようになりました。資金や資源の確保は、能力拡大していく鍵ですが、成長が目立たない国々でも改善は可能なのです。
- **データとモニタリングへの継続的な投資**—人間開発を測る上で、データが特に不足しているジェンダーやエンパワーメントなどの分野では、継続的な進捗評価が必要です。
- **調査と政策に関して多くの検討課題が残っている**—国の発展と政策を、所得の最大化ではなく、人々の自由の拡大という観点から評価する、新しい人間開発の経済学が求められています。また、今後は、平等とエンパワーメント、そして大きな問題となっている持続可能性を実現する道のりを深く理解しようとする継続的な試みが必要です。

*** **

本件に関するお問い合わせは
 国連開発計画(UNDP)東京事務所 西郡
 電話:03-5467-4751